

問題 「し」と読む漢字をできるだけ多く書き出してください。

「し...し...し...し...四!」「し...し...し...志...」「し...し...し.....死!?!」

さすがである。漢字練習をサボってきたのは一体どこの誰であろうか。他でもない私である。周りを見渡すと「史」「氏」「誌」「紙」「資」…。ああ、確かに…。だが落ち込むのはまだ早い。今日の授業のテーマは「志」である。

子どもの頃から何をやるにも時間がかかり、周りの友達は何気なくこなせることにまったくついていけなかった私は、救いようのない落ちこぼれであった。中学に入ってからでもそれは変わらず、毎朝のように英単語テストや漢字テストの再試験会場に足を運び、気が付くと立派な再試常連客へと成長していた。dog と bag を書き間違え、doll と ball がごちゃ混ぜになる私は、のび太くんに負けず劣らずの成績をとり続けた。あいにく私の机には引き出しが無く、朝ごはんはパンを食べていなかったせいか、我が家にネコ型ロボットが配備されることはなかった。ドラえもんのいないのび太くんはダメなままなのか。ジャイアンにいじめられ、お母さんに怒られるばかりなのだろうか。それが案外そうでもないらしい。私は思いがけずドラえもん以上のものを手にしてしまった。それが「志」である。

「志」とは何か、(それはぜひ小林先生のもとで考えていただきたいのだが) 私なりの答えは、「自分が生まれてきた意味そのもの」である。天命であり、その天命をまっとうすることが「志」とも言えようか。この「志」という言葉と真に出会った時、私は自分が生まれてきた意味を、たった一人の私という存在の価値を強く意識するようになった。下から数えて1番目の私が一度も折れることなく、あきらめることなく、自尊心を持って努力し続けられたのは、ただひたすらに「志」について考え続け、向き合い続けることができたからだ。自分の「志」は何か、なぜ生まれてきたのか、そして社会の一部である私は社会の為に何ができるのか、この問いを2週間に1回、同じ時代を生きる仲間と共に真剣に考える。考えれば考えるほど、知れば知るほど、このままではいけない、何かしなくてはいけない、と熱いものがこみ上げてきた。

落ちこぼれ続け、散々底辺を駆けずり回った私だが、なんとかここまで歩いてくることができた。高校でプレゼン大会に出場したり、部長を掛け持ちしたりと、やりたいことをやって、第一志望の大学に合格することもできた。ドラえもんの代わりに「志」を得たのび太くんは、“どこでもドア”がなくても歩いて来られたのだ。“タケコプター”がなくても飛び立つことができたのだ。

冒頭で紹介した[問題]は、当時中学生だった私が初めて「志」について考えた授業で出題されたものである。この日、私の人生は間違いなく大きな一步を踏み出した。もし、この問題に出会っていなければ、今の私はなかっただろう。この問題に出会えたこと、そして「志」について考えられる機会をくれたこの教室に深く感謝している。